

もみじ

—広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 県民ハイキング (12/10 鈴ヶ峰) 報告
2. 県高体連登山部顧問安全登山講習会・研修会 (12/8・9 折り鶴タワー内研修室・広島学院) 報告
3. ありんこチーム活動 (10/29 大万木山、11/19 三瓶山) 報告
4. 広島市安佐北消防署・広島県山岳 SC 連盟山岳救助合同訓練 (11/25・26 安佐北区加坊山) 報告
5. 恐羅漢登山道笹刈り (11/18・19 積雪で中止) 報告
6. 岳連短信 (寄贈御礼、1~2 月の行事予定)

1. 県民ハイキング報告

(事務局 西部 伸也)

8/27 の蓮華寺山以来 3 か月半ぶりに県民ハイキングが実施され (前回 10/8 の宮島は降水確率が高くて中止となり 8 名の有志のみで実行)、一般 15 名・岳連関係者 24 名の計 39 名が参加した。

蓮華寺山の時は夏の暑い時で大変だったが、今回は冬としては暖かい気候で、全体的には快適なハイキングとなった。(鈴ヶ峰への登りで 1 名が体調不良となったが、付き添いの方と共に無事下山した。)

鈴ヶ峰山頂・鈴峰石碑・道行地蔵・鬼ヶ城山頂では県岳連スタッフによる様々な興味深い解説 (地質・植生、自然保護指導員制度、歴史) がなされ、自然保護研修会を兼ねた「宿題」も出された。

コースは鈴ヶ峰から鬼ヶ城山へと縦走したのち、山田団地に降りるといふもので、そこからは路線バスで出発点 (アルパーク付近) に戻ることができ、手頃な縦走コースであった。(急な下りが多い鈴ヶ峰東峰→道行地蔵の区間は、人数が多いこともあって

少し時間がかかったが、特に無理はなかった。)

道行地蔵・美鈴が丘南第五公園で昼食休憩を取ったが、公園にはトイレもあったので、適切だった。



アルパーク近くの西部埋立第四公園で開会式



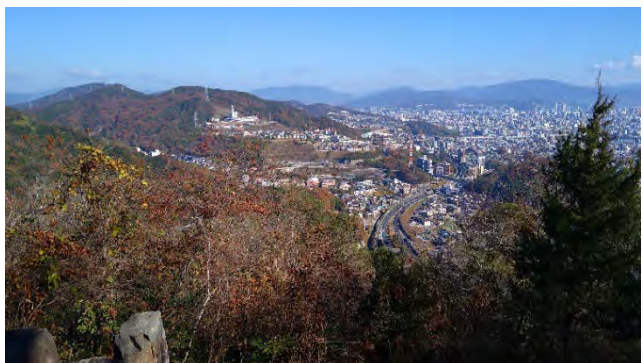
鈴ヶ峰東峰山頂での自然解説



東峰で記念写真



鈴峰石碑での歴史解説



石碑前からの広島市街地 (左端に鬼ヶ城山)



鬼ヶ城山手前の八畳 (はっちょう) 岩からの鈴ヶ峰団地



山田公園で閉会式

2. 県高体連登山部顧問安全登山講習会・研修会報告

(県高体連登山専門部事務局長 内藤 弘泰)

12月8日(金)・9日(土)に折り鶴タワー内研修室と広島学院で開催された表記の講習会・研修会の報告をいたします。

この研修は、2017年に栃木県で高校生が雪崩で亡くなった事故をきっかけに、スポーツ庁から、登山部顧問は年1回、1日の研修を受けるように通達があったことで始まりました。高校登山部顧問を対象として、登山に関する基礎的な知識や技術の習得と、高校生等を登山に引率する際の危機管理の方法等について研修を行い、指導者としての資質、能力の向上を目指す目的で行われます。

1日目の会場は、平和公園横の折り鶴タワー10階の広島県男女共同参画財団エソール広島の研修室でした。私は初めて折り鶴タワーに入ったのですが、普段と違う角度で原爆ドームが見下ろせる素晴らしい眺望に感動しました。

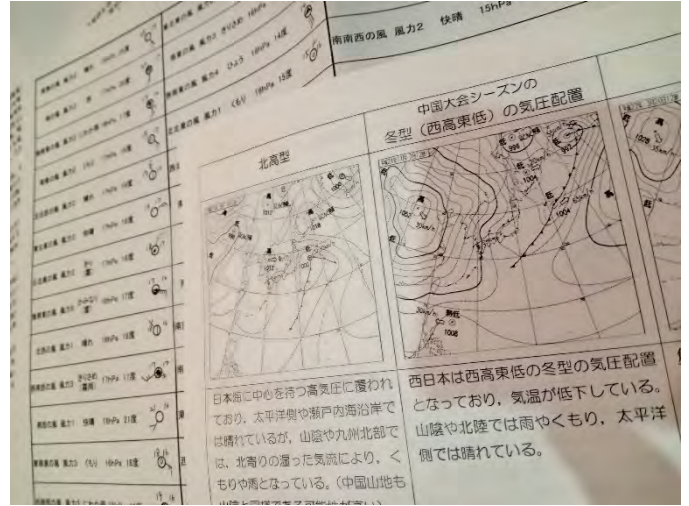
13時30分から、まずは主催者である県教育委員会から、スポーツ庁からの「冬山登山の事故防止について」の通知の確認があり、高校生の冬山登山は原則禁止であることや、教育的意義から例外的に冬山登山を行うために必要な条件を確認しました。

次に、各校の顧問から、それぞれのクラブ活動についての情報共有を行いました。広島近郊の公共交通機関でアクセスできる山の情報や、練習メニュー、保護者への説明プリントなどの話題があり、ベテランの先生方の取り組みや考え方は、若い先生たちにとってとても参考になったと思います。要所要所で、広島県山岳スポーツクライミング連盟の指導部よりお越しいただいた後藤様よりアドバイスや感想をいただき、今後のクラブ指導を深めることができる、充実した内容となりました。

2日目は、広島学院高校の会議室をお借りして、天気図の作成技術やその指導方法についての講習・研修を行いました。講師は安古市高校の福永教諭にお願いしました。福永教諭は気象予報士の資格をお持ちで、長らく県内大会の天気図審査をご担当いただきました。天気図作成の基本的な知識や、生徒を指導す

る上でのポイントをお話いただいた後、ラジオの気象通報の原稿をゆっくり読み上げてくださり、我々も天気図作成を体験しました。思っていた以上に難しく、その後の解説にたいへん納得することができました。福永教諭はインターハイ登山競技の副審査員長もつとめられたご経験があり、全国大会での審査基準などもお話いただき、こちらも興味深く聞くことができました。また、各季節の代表的な気圧配置や山行前にチェックしておくべきポイントなどを資料とともに解説していただき、安全な登山を行うための知識を深めることができました。

お世話してくださった、広島県教育委員会の方々、講師を派遣してくださった広島県山岳・スポーツクライミング連盟に感謝を申し上げます。おかげさまで、充実した研修になりました。



2 日目、天気図講習/研修の資料

3. ありんこチーム活動報告

(顧問・個人会員 岡谷 良信)

参加者の感想文と写真です。

チームありんこ 10 月『大万木山』山行報告

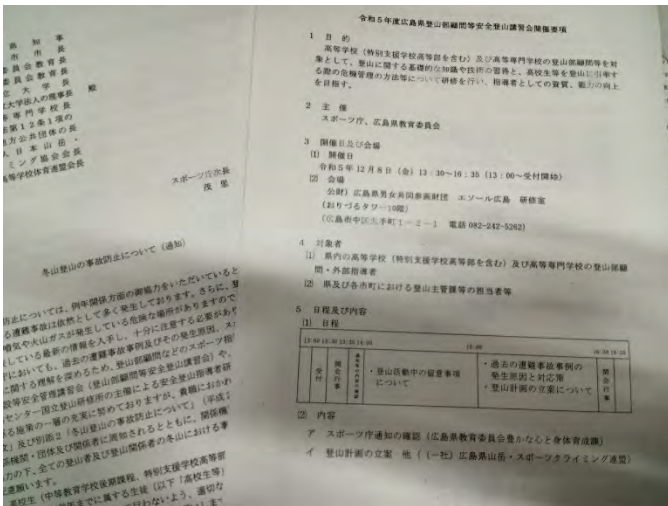
(個人会員 林 明子)

10 月定例登山は『大万木山』(おおよろぎさん・1218 m) への日帰り登山。

大万木山へは、初夏のサンカヨウ、秋の紅葉、冬のスノーハイクと個人的には何度か訪れましたが、島根県民の森として、よく整備されていて、3ヶ所の避難小屋、山頂小屋にはトイレもあり、ブナの原生林が広がる緑豊かな山です。今回は山のシンボル「たこ山毛櫨」の紅葉を楽しみに登りました。

29 日(日) 8:20、道の駅・ゆめランド布野に集合し、車 2 台(参加者 7 名)に乗り合わせて出発。滝見コースの登山口、門坂駐車場 9 時到着、10 台程度の駐車場もほぼ一杯、ギリギリ状態で駐車できましたが、大万木山の人気の高さが伺えます。

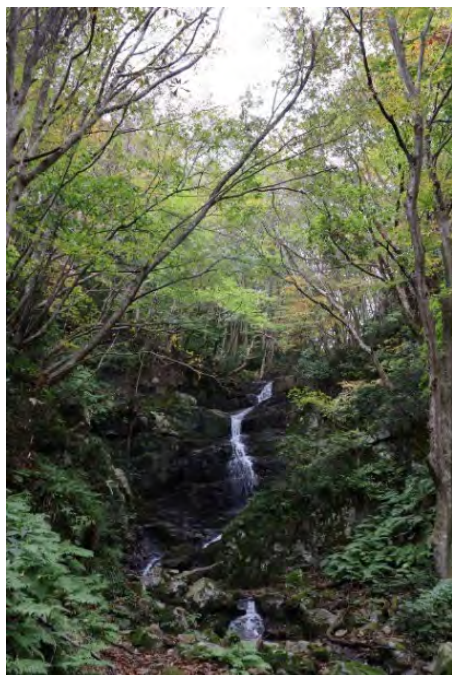
門坂駐車場、9:15 時計回りで出発、滝見コース～頂上～たこ山毛櫨～溪谷コース～横手コース～門坂駐車場へと周回予定としました。途中で権現滝立ち寄り、水量は少なめでしたが、落差 12M の階段状の岩肌を流れ落ちる滝は美しく、迫力がありました。滝から 15 分ほどで地蔵尊展望台、あいにく曇天でしたが、三瓶山ははっきりと見ることができました。



講習会開催要項



1 日目、折り鶴タワーから原爆ドームを望む



権現滝



地藏尊



地藏尊展望台

紅葉の美しいブナ林が続く登山道で、岡谷さんがキノコを発見、ツキヨタケ、食用のムギタケによく似ているが、ツキヨタケは毒きのこ、根本を割ると暗紫色のシミがあるなど、見分け方教えて頂いた。

そして、いよいよ、たこ山毛櫨とご対面、黄葉をまとい、威風堂々とした姿は圧巻であり、幹は正に海中に潜り込むタコのである、不思議な樹形はかっこ、ブナは薪として利用価値も無く、ただただ切られ切られながらも、(ひこばえ)を育て守った生命力の幹に両手を携えたただ、しっかりパワーを貰いました。

この日はとても寒かったので、頂上の避難小屋で輪になって昼食を取りました。メンバーの多くがテルモスのお湯でカップ麺を作られていました。私も、登山を始めてからテルモスを購入し、手軽に温かい食事ができて本当に便利なこと痛感する。

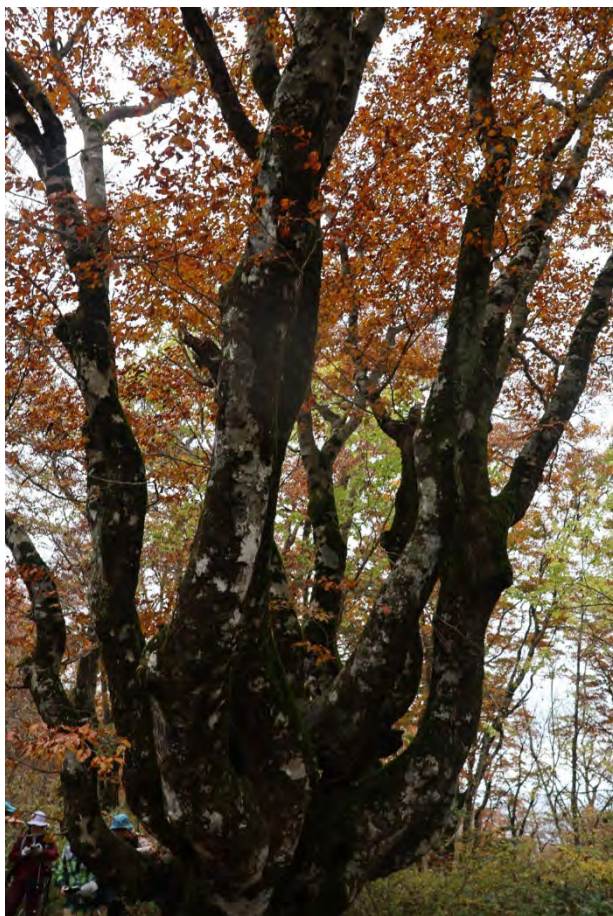
食後、下山の開始と同時に雨が降ってきました。天気予報は晴れだったのに……、と思いつつ、落ち葉で滑らないよう、自然と足先へと目を移すと、直径1cmほどの白くて可愛い花(キッコウハグマ)が道沿いに贅沢に咲いているのに気づき、雨で下がったテンションも一気に上がり、秋の花もほぼ終わったこの時期に、素敵なお褒美を頂きました。

全員何事も無く下山し、登山口から10分の「頓原(とんばら)ラムネ銀泉」につかって温まり帰宅路につきました。

気温は低く曇天のち雨、個人なら中止にするであろう山行も、チームで行け、楽しく登れました、ありがとうございました。



ブナ林を行く



見事なタコブナ

チームありんこ 11 月三瓶山登山報告

(個人会員 小玉 靖視)

今回の参加者は男性 6 名、女性 4 名の計 10 人でした。

11 月の三瓶山登山の目的はチームありんこの来年の年間スケジュールを考えるたたき台を考えながら、鍋を囲みみんなの親睦を深める事と三瓶山の縦走でしたが、急に金曜日の夜から土曜日にかけて悪天候になる予報になり、土曜日は、ケビンが使える 15 時に北の原キャンプ場へ集合、山行は 19 日 (日曜日) に変更と雪山用装備を持って来るようにと連絡があり直前の変更で計画係の人には大変な負担をかけてしまいました。

私も急ぎょ金曜日にスタッドレスタイヤに変えて、土曜日の昼ごろ三瓶山に行くと、山のふもとから雪道になり変更を決断した係りの人に感謝しました。

その日はケビンで美味しい鍋を囲みながら和気あいあいと過ごし、来年の行きたい山を皆に出してもら

いながら、明日は雪が有りそうなので周回コースは止めて、急な所は下りに使用しないコースに変える事を皆で確認してから就寝しました。

翌日、土曜日は、朝食で炊いたお米が余ったのでみんなで塩むすびを作って持って上がることにしました。

北ノ原キャンプ場から西の原登山口に移動し、車 2 台を残置して残り車 3 台で 東の原駐車場に移動し三瓶観光リフトを使い時間と高度を稼ぎました。リフトを降りると、思っていた以上に雪が有り (20cm) みんなのテンションが上がり皆いい笑顔になっていました。

女三瓶山から兜山→犬戻し→雪が有り道が細く崖が迫っているのでここは皆慎重に進み、無事に通過して避難小屋をめざして進んで行き山頂周辺も風が強く吹いて寒かったです。運悪く小屋に着く直前に 10 人程の団体が先に小屋に入られたので、なんとか女性陣 4 人用の席を確保して、男性陣は風の強い中、外で昼食を取り、風が強いので昼休憩を切り上げ皆下山後のお風呂を思い浮かべながら下山を開始、男三瓶で集合写真を撮り、西の原登山口の方に少し降りると少しづつ風も弱くなり、雪も無くなって、林の中に入ると雪は無いのですが、今度は落ち葉が多く、濡れて滑りやすいので気を使いつつ、後何回ターンしたら後は真っ直ぐ下りるだけだよと地図を見ながら和気あいあいと下山しました。思わぬ雪でしたが記憶に残る雪山登山でした。

帰り道三瓶温泉で、汗を流し、温まり、コーラも飲んですっきり、皆さんのおかげで今回も貴重な体験をさせて頂きました。

(前日 17 金曜日の悪天候により変更し、18 土曜日は、ケビンが使える 15 時に北の原キャンプ場へ集合)

19 日曜日の行動

→9:00 東の原駐車場へ移動 リフトを使いました
9:35 スタート リフト上→9:57 女三瓶 (衣服調整)→10:48 犬戻し→11:08 避難小屋 (15 分: 昼食)→11:30 男三瓶 1126m→西の原登山道で下山→12:50 登山口→13:10 西の原登山口着→東の原駐車場移動→解散→個々に温泉へ移動



男三瓶への縦走路を登る



男三瓶山頂にて

『11月26日 山岳救助合同訓練の報告』

(指導部 久保田 征治、写真も)

広島市防災センターに集合し、安佐北消防署中島救助隊と加坊山登山道付近にて、傾斜降下訓練及び救出訓練をおこないました。

滑落位置は特定済みの想定で、出発時にジオグラフィカに緯度経度を入力して場所をセットし救出に向かいました。

ポイントに到着し、要救助者役の消防隊員が下に降りて、上から滑落した想定で倒れたまま救助を待つ。

全体を指揮する隊員の指示で、1名が立木に支点を構築し懸垂下降で要救助者のもとに向かう。

残りの4名は、滑落箇所の上で、立ち木を利用しカラビナ、プーリー、テープスリング、50mロープとエイト環2ヶ所で、ローアダウンのシステムの構築とストレッチャーを広げて準備、2本のロープをリギングプレートを使ってストレッチャーと接続。ストレッチャーとともに下降する隊員もリギングプレートにパスをセットして下降準備し待機。

要救助者のもとに降りた隊員は、要救助者の状態を確認し、無線でストレッチャーを降ろすよう指示。

1名がストレッチャーとともに下降する。このときは1本のロープをメインとして1本のロープをバックアップとして下降。

要救助者のもとに到着すると、隊員2名でストレッチャーに要救助者を乗せ固定し、無線で引き上げを要請。

このとき、プーリーを使った1/3側のロープをメインとしてリギングプレートのセンター穴へ、エイト環を使ったロープはバックアップとして、センター横の穴に付け替えていた。

1/3システムの引き上げは、ロープが滑らないようアッセンダーを利用し効率よく引き上げていましたが、流れ止めのプルーシックがプーリーの上に挟まり、都度解除で時間ロスが発生してしまい、改善の余地ありでした。

訓練状況を一通り見学した後、巻き込み防止の改良案をアドバイスし、ロープが地面に擦れる対策として、立ち木の上部に支点をとる為の、スリングを利用した

4. 安佐北消防署・県岳連山岳救助合同訓練報告

(指導部長 森本 覚)

日時：11月25日(土)・26日(日)

参加者：25日/広島市安佐北消防署中島救助隊甲部、
指導部 森本、塩田26日/広島市安佐北消防署中島救助隊乙部、
指導部 森本、久保田

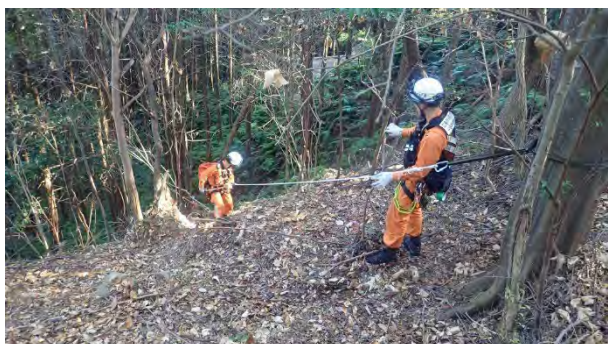
場所：広島市安佐北区 加坊山

立ち木の登り方と、ロープを投げてアッセンダーで登る方法を説明。

また、沢とか岩がある等で引き上げにくい箇所を想定し、メインロープを使った、斜張りの引き上げ法をアドバイスした後下山、意見交換の後解散となりました。

消防隊員の方達は、すべての手順を声出して互いに確認しながら真剣に取り組まれていて人命にかかわる仕事をしている緊張感が伝わってきた。

山で消防の方達にお世話にならないように、安全登山の普及に努めなければと思った次第です。



5. 恐羅漢登山道笹刈り (積雪で中止) 報告

(広島山岳会・安藤縦走会 安藤 和己)

期日 11月18日(土)～19日(日)

参加者 安藤、小泓、吉村、元廣、福永 (以上 広島山岳会)、谷本、中岡 (以上 安藤縦走会)、西部 (タンネンクラブ)、後藤 (広島大岳山の会)、広田 (広島山稜会)

<行動記録>

今回の行事は、私にとって新しい事への挑戦であった。しかしながら、前日の深夜より芸北地区に大雪が降り、牛小屋高原ヒュッテ周りで約 10 センチ積雪があった。ほとんど草刈りは期待できないことは分かっていたが、会員外に当日の朝、連絡不可のため、朝 8 時前に一番乗りで小屋に到着。タイヤ跡もない新雪の中をスリップしながら何とか小屋に着き、先週教わった鍵の開け方もスムーズ。次々仲間が集まって来た。結局、18日16名、19日18名の予定のところ、10名が雪の中をわざわざ来てくれた。中止は予想されていたにもかかわらずだ。

皆と相談した結果、安全と効率を考慮し中止とした。朝 10 時位より懇親会となり、皆の本音を聞いて盛り上がり、夕方には酔っぱらって寝た。10年振りの小泓さん、山稜会の広田さん、タンネンの西部さん、広大OBの後藤さん達といろいろ語り合い、できれば年に

2 回くらい定期的に草刈りしたい方向性となった。

今回の恐羅漢登山道整備の企画は、一つは親しい広島山稜会の会員が年老いて、今迄刈っていた作業ができなくなったので、できれば継続して欲しいとの遠慮がちな要望があったためである。特に台所原から天杉の間は何年も手つかずで、背より高い、しかも小指より太い笹が群生し、道も消えていると聞いた。もう一つは、山岳連盟主催のスカイランを続けられない状況なので、登山活動を通して社会貢献し、併せて多くの連盟の人と親しくできたらと願ったからだ。さらに、私自身段々体力が衰え、かつてのように感動する登山ができなくなって、登山界で精一杯自分が頑張れることは何かを探し求めていた。ダメかもしれないが、先ず足を踏み出そうの精神であった。いろいろな会がある中で、面倒なことは予測していたが、事故の保険、草刈りの許可などいろいろ注文がきた。主催は広島山岳会と安藤縦走会、協力は広島山稜会、日本山岳会、岳連としてスタート。結局、草刈りの成果はゼロだったが、企画そのものは良かったと思っている。



11 月 18 日朝の牛小屋高原の様子



翌朝は 8 時前に解散

6. 岳連短信

1. 寄贈御礼

(12/22) 広島山稜会『峠通信』774 (12月号)
 12/22 三原山の会『筆影』No. 526 (1月号)
 12/18・25 福山山岳会『会報』12月号・1月号
 12/18『中信高校山岳部かわらばん』735

2. 1~2月の行事予定

2/10~11 県高体連新人大会 (もみのき森林公園)
 2/11 県民ハイキング (61) (黒滝山・白滝山)
 2/17~18 冬山レスキュー研修会 (三瓶山、参加申込は1/22~2/2)

編集部より

- この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。
- 会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。
- この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。